

YELL ～エール～**第12回 総合学科発表会**

先日行われたディベート2回戦を見ていて、一つ感じたことがあります。それは伊丹北で学んで2年、やはり11期生諸君も「総合学科伊丹北高校」の生徒として育ってきたのだな…ということです。ディベートに対する取り組み方に、やはり普通科の生徒には見られない(と言っても過言ではない)熱心さを感じたからです。そして言うまでもありませんが、そういった日頃の成果を改めて色んな方に見ていただく発表の場が「総合学科発表会」なのです。今年の発表会は伊丹北高校にとって第12回目の発表会となるわけです。これは伊丹北高校が総合学科として歩み始めて12年目を迎えたことを意味します。それは決して簡単な道のりではなかったと思います。暗中模索の創成期を経て、今の形になるまでの様々な先輩方、先生方の努力の結果が現在の伊丹北高校なのだと思います。「10年ひと昔」等と言われますが、皆さんは伊丹北高校の「次の10年」を担うトップバッター11期生一なのです。

クラスごとに趣向を凝らして作成した総学の冊子も、「日本文化探求」「修学旅行」「ディベート」のそれぞれで発表するステージも、多目的室に飾られる展示も、特色科目の展示・発表も…この1年間の自分たちの足跡をしっかりと刻み、それをご覧いただく方に少しでも伝わるよう知恵と力を集結させましょう。

明日、2月8日(水)一伊丹北高校第12回総合学科発表会。

ディベート いよいよ佳境に！

去る2月2日、ディベート2回戦が実施されました。内容的にも1回戦に比べひとまわり質の高い論戦になってきたように思います。2回戦共に勝ち上がっているのは6チームとなりました。しかし敗退したチームの中にも、非常に素晴らしいディベートを行っている班もたくさんあります。また、勝ち負けだけが全てではありません。例え負けていても、ディベートそのものを楽しみながら自らの糧にする、それが出来るのも皆さんの素晴らしい所です。

総合学科発表会翌日になりますが、2月9日はいよいよ最終戦になります。

Aブロック決勝戦は1組1班 対 3組3班

Bブロック決勝戦は2組2班 対 5組2班

Cブロック決勝戦は1組4班 対 6組1班 です。ここで勝ち残ったチームの中から2チームには2月16日に学年全体の前での公開ディベートに出場してもらいます。頑張りましょう！

うるう年

1月はいく、2月は逃げる、3月は去る…などと言ってこの時期は慌しく時が流れ、気付けばあっという間に年度が替わってしまうのではないかという気がします。今年、2012年はうるう年。漢字では「閏年」。地球の公転周期が実際には365日より約1/4日弱長い為、4年に1度、1年366日という年を作っ
て季節とのずれを縮めるそうです。ただし4年に1度1日(24時間)をカウントすることで生まれる誤差を修正する為、4の倍数の年でも100の倍数に当たる年は閏年とはしないそうです。さらに誤差の修正による誤差を修正する為、100の倍数の年でも400の倍数に当たる年では閏年とする…(この規則を題材にした数学の問題があります)しかし私には生まれてこのかた4年に1度の閏年が来なかったという記憶はありません。2000年問題に湧いた世紀末、西暦2000年は考えてみれば100の倍数でしたが、同時に400の倍数でもあった為、閏年だったのです。次に100の倍数の年が来るのは2100年。つまり私がそれを経験することはあり得ません。(皆さんの中には、もしかしたら長寿で生きている人がいるかもしれませんね)

平年より1日多いこの年を皆さんはどう過すのか。たかが1日、されど1日。若い皆さんの多くは「1日」の大切さを実感できないかもしれません。明日という日が来るのは当たり前に見えるかもしれません。しかしそれは決して当たり前では無いのです。

11 期生諸君の中には受験の為だけに勉強をするのだと考えている人がいるようです。いや、もしかしたら殆どの人の本音はそうなのかもしれません。それがすべて間違っている、改めなさいと全否定するつもりはありません。誰しも目先のことが心配だし、入学試験にパスすることは高校生である皆さんにとって、とても大切なことであるのは事実だと思います。ある意味ではそれだけ「進路」に向き合っているということなのかもしれません。しかし長い自分の人生においてそれは通過点でしかないし、社会人となった時その人の価値を判断するのは学校の名前だけでは決してありません。苦境に立たされたとき、その壁をどう乗り越えていけるのか、さまざまな集団(チーム)の中でどのように人と関わっていけるのか、それこそが知恵と能力であり、生きる力なのです。高校で学ぶ様々な事柄はそれらの基礎基本であり、総合学科の多様な選択科目は偏った受験の為だけの学習をするものではないと、私は思います。現在、学んでいるものが受験に必要なから手を抜く、などという小さな狭い視野で物事を見ず、「自分磨き」をしていると思ってほしいのです。そうすれば近い将来、どんな世界で生きていくことになっても伊丹北高校で学んだことは、皆さんの力となってくれることでしょ
う。

—とりあえずは今、2年次生として学んでいる全ての教科・科目を大切に
取り組んでほしいと思います。かけがえのない「1日」を大切にしながら。